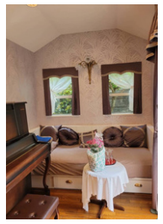
助産院紹介

豊倉助産院

院長　豊倉節子さん　横浜市泉区



【なりたち】
　ご飯を作って人に食べさせるのが好きだったので、いつか産褥入院をやろうと思っていました。
当時仕事をしていた病院では医師なしでお産を介助していたので、助産師だけでもお産が出来るんだと思うようになり、横浜市保土ヶ谷区で平成6年にお産を取り扱う助産院として開業しました。
平成9年に泉区に移転してお産も増えていきました。

【院長のメッセージ、思い】
　75歳になり、自分の引き際を考えています。
整えてきた助産院を受け継いでもらいたいと思っています。
今まで大切にしてきたことは、スタッフがいなければ今までやってこれなかった、スタッフありきの自分の仕事だったと思うので、人が大事です。また、食を大事にした生き方はこれからも伝えていきたいと思っています。(取材：野村)

いなだ助産院

院長　岩田美也子さん　川崎市多摩区

【なりたち】
　しばらく自宅出産の出張専門で開業していましたが、出産が減ってきたこと、稲田助産院の前院長が後継者を探していてお声をかけて頂いたことから4代目院長として引き継ぎました。

【院長のメッセージ、思い】
　働いている助産師が楽しくなければ、妊産婦さんも楽しくないと思っているので、スタッフと楽しく仕事ができるように努めています。
私も助産師として、もう一花咲かせたいと今後を考えています。(取材：野村)

各種はらまき　ニット生地
千葉県野田市木間ケ瀬 3292
tel:04-7198-1313　fax:04-7198-6117
ルビー本舗

公益社団法人　神奈川県助産師会
〒231-0037
神奈川県横浜市中区富士見町3-1
神奈川県総合医療会館6階
TEL：045-262-4201
E-mail：office@kanagawa-josanshi.com
HP：https://kanagawa-josanshi.com/

事務局より

2022年度会費の口座振替日
1回目：2023年2月24日（金）
2回目：2023年3月23日（木）
よろしくお願いいたします。

編集後記

助産院取材に同行し、大先輩のお話にとても刺激を受けました。
今後は病院で働く先輩方のお話もお聞きしていきたいと思います。
(安藤)

公益社団法人　神奈川県助産師会　ニュースレター

みらい

2022年 12月 VOL.18

会長あいさつ

会長 岡本登美子

　寒冷の候、皆様お健やかにお過ごしのことと拝察申し上げます。
会員の皆様方には、いつもご理解とご協力を賜わり心より感謝申し上げます。
　今年もCOVID-19 の第7波の感染増大で、妊産婦や医療者もワクチン接種の有無にかかわらず罹患する状況です。また、日本の出生率の減少は続き、大雨など環境の変化に伴う不安要素も増えています。研修会や会議もハイブリッドが主流となり、IT機器の苦手意識と戦い、自立を目指して努力しております。そして、11月に初めて神奈川県看護協会と神奈川県助産師会協働の産後ケアの研修会を行いました。
　今後も地域、医療、関係機関や団体との連携を充実させ、助産師のスキルアップを目指して努力してまいります。

保健指導部会集会報告

保健指導部会
部会長　山浦 直子

　11月5日オンラインにて部会集会を行いました。
たくさんのご参加ありがとうございました。
今年の部会集会では、保健指導部会の皆様への情報提供のほか、
NPO法人孫育て・にっぽん理事長のぼうだあきこさんに「今、地域の助産師に伝えたいこと」というテーマで講座をお願いしました。1時間でしたが素晴らしい内容でした。
「今の若いママ、パパたちのリアルな状況がわかった」
「変わらなければいけないのは私たち」
「ジェネレーションギャップを埋め、伝え方、情報提供の仕方もアップデートが必要」
「育休制度が変わりパパへの支援に取り組みたい」
「企業や行政を巻き込み活動していく必要性を感じた」
などたくさんの感想をいただきました。
アンケート結果から、部会集会で保健指導に役立つ講座を毎回入れて欲しい、オンライン講座が受けやすいとお声がありましたので、来年度も皆さんに役立つ部会集会開催に向け検討していきたいと思います。

令和4年度　災害訓練

とわ助産院に集まった会員の皆様

災害訓練開催報告

災害対策委員長 山本年映

　11月21日は安否確認訓練、23日には神奈川県助産師会では初めての災害訓練を行いました。南関東に震度7の地震の想定で、会長の協力の下、事務局に災害対策本部の設置を行い、理事はZOOMで参加し、災害対策本部での役割分担などを確認しあいました。とわ助産院では災害時支援協力助産師が２０名ほど集まり、妊婦（３６週）と母子１組（産褥１か月）がとわに来院したとの想定で、一時避難所として対応の仕方、設営などを実践しました。やはり机上だけではわからなかったこと、逆にしっかり平時の備えをしていないとならないことを実感しました。
初めてのことで充実した訓練とはいかなかったのですが、課題をたくさん頂けました。毎年１回訓練を実施していく予定です。

　そして、会員のつながりも大切です。安否確認訓練では会員全員の確認を目指していますが、全体の6分の一の確認で終わってしまいました。助産師会のオープンチャットに登録が済んでいない方はどうぞよろしくお願いいたします。

更衣用のテント組み立て

グループに分かれてディスカッション中

産後の方が避難してきた想定でお話を伺う

初めての段ボールベッドの組み立てに四苦八苦

受付のシミュレーション中

台本がないため、情報収集も手探り

会長は事務局、他の理事の皆様は
自宅で発災した想定でオンライン参加

暗い中協力してロールプレイ

「災害訓練　災害時支援協力助産師にできること」に参加して

　初めて参加する災害訓練ということで、どんなことが行われるのだろうと緊張していました。ピンクのビブスを着て、登録証を首からさげた瞬間に気が引き締まり、自分にできることは何かしっかり聞いて帰らないといけないと、どこか気負いながら始まりました。
　会長を始め、理事の方々は事務局から、自宅からと様々な場所にいる想定でオンラインで繋ぎながら進められていきました。訓練をするにあたり、事前に災害対策委員の方からマニュアルをもとにしっかりと説明してもらうことで、イメージできました。まずは自分の安全確保が大前提であり、支援時は気負いすぎず、行える範囲で行えばいいのだと少し肩の力が抜けました。
　その後は実際に県内で震度7の地震が発災した想定でとわ助産院にいる想定で照明を落として、ロールプレイングを行いました。周りの参加者は、「臨場感があってイメージがついた。」「プライバシーを意識しての配置が難しかった。」「依頼があって自分が避難所に出向いていくことが現実的だと思う。」「普段から訓練しておくのは大切。」「待っている母親たちにどう支援できるのか考えるきっかけになった。」「自分の地域で何ができるのかを考えたい。」等の感想を話されていました。
　今回参加してみて、登録している助産師同士が初めて顔を合わせて訓練できたのがよかったと思いました。助産師として自分ができる範囲で行うことができるようにまた訓練に参加したいなと思いました。（災害時支援協力助産師　野村香緒理）

災害時支援協力助産師　募集しています！

神奈川県から神奈川県助産師会に要請があった場合、支援を行います。
ホームページから登録申し込みが出来ます。
登録後は登録証・ネームホルダー・ビブスを貸与致します。
詳細は右QRコードからご参照ください。ぜひ、お待ちしています。